

# 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業 名古屋大学(タイプII) 取組概要

## 1. プログラムの概要

### 【1.名称】

グローバル・マルチキャンパスでの多文化共修を通じた未来社会の創造

### 【2.取組の概要】

名古屋大学は、組織的・互恵的に双方向の多様な連携活動を推進する海外の有力大学(ノースカロライナ州立大学、シンガポール国立大学、フライブルク大学、エディンバラ大学)を戦略的パートナー大学(SPU)とし、先方大学内に構築した本学のグローバル・マルチキャンパス(GMC)を中心に、多文化共修プログラムを体系的・階層的に展開する。プログラムは3段階で構成され、フェーズ1では異文化理解を促す交流活動、フェーズ2では価値観の葛藤を通じた応用力の育成、フェーズ3では課題解決型の実践的学びを重視する。これにより、学生の国際的視野と実践力を育成し、アカデミック・ソーシャルインパクトを創出する人材を育てる。また、留学支援制度の整備や広報強化、単位認定、企業連携などを通じて、学生の海外留学を促進する。



### 【3.育成する人材像】

本学は「学術憲章」で、人々の幸福に貢献することを使命に、「勇気ある知識人」を育てる基本理念を掲げている。すなわち、幅広い教養と高い専門知識・技能を修得し、学際的・多角的視点から人々の幸福や持続可能社会の発展を妨げる諸問題の解決に立ち向かう高い志と、グローバルな視野を備えて多様な人々と協働し、困難に直面しても耐性を発揮し、回復する意思と態度を持つ人材である。本事業でも、本学のGMCを最大限に活用してこのような人材を育成していく。

### 【4.主な取組】

#### ①特色ある多文化共修科目について

##### A. 全学教育科目 国際理解科目[短期海外研修A・B(北米)](正課・選択必修)

【概要】 ノースカロライナ州立大学とのRyugaku Academyでは、日本と現地学生が少人数グループで異文化理解や米国事情に関する共同プロジェクトを実施。渡航前の準備や現地調査、共同発表を通じて、国際志向と実践的な異文化理解を育成するプログラムを年数回展開。

##### B. 情報学部 Project-Based Learning + Academic English科目(正課・選択必修)

【概要】 情報学部では、シンガポールの外資IT企業やシンガポール国立大学と連携し、AI・ITをテーマにしたプロジェクト型学習を実施。学生は企業の課題をもとに調査・発表を行い、キャリア形成にもつなげた。令和6年度は試行的で現地学生との共修は限定的だったが、今後は現地学生との連携を強化予定。

##### C. 環境学研究科 グリーンリーダーシッププログラム(正課外)

【概要】 環境学研究科は、フライブルク大学と連携し、気候変動や生態系変化などの環境課題に対し、持続可能性の観点からフィールドワークや比較調査を実施。4D-GISを用いた都市の物質循環分析では名古屋市とフライブルク市を対象に研究を進め、成果は国際学会で発表予定。さらに、修士学生の海外インターンや教員の訪問も行われ、研究と人的交流を深めている。今後は正課科目として開講予定。

## ②日本人学生の送出しの取組

日本人の留学留学促進のために、本事業では10の取組を推進する。

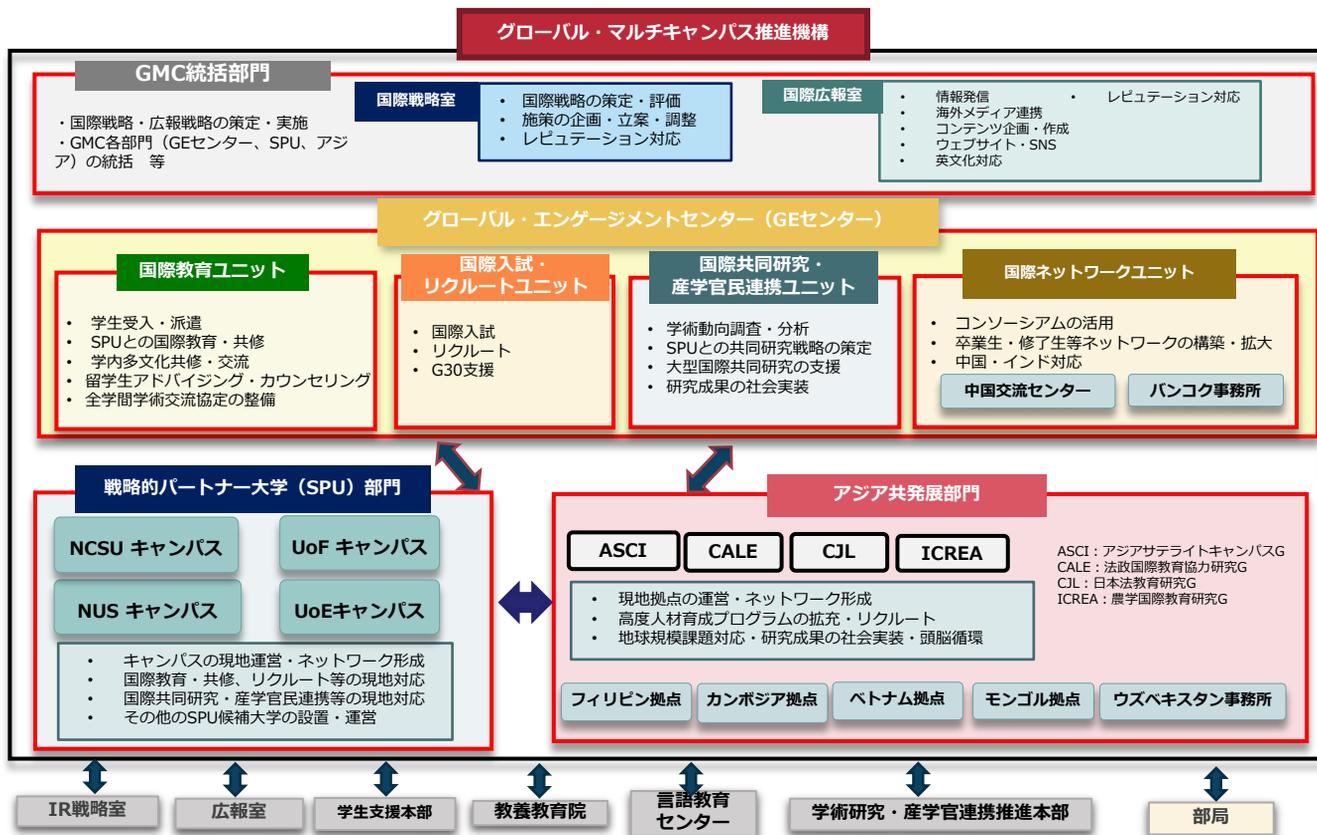
- 1: 国内外多文化共修メニューの体系化と広報強化
- 2: 教養教育・専門教育の多文化共修の単位化促進
- 3: 留学可能な期間の確保
- 4: グローバルポイント・オープンバッジの導入
- 5: 段階的な英語科目の導入
- 6: 留学生向け授業の日本人学生への開放拡大
- 7: 入学内定者向け留学講座・入学前体験留学
- 8: 海外インターンシップの拡大
- 9: SPUからの短期留学生との多文化共修
- 10: 企業連携と独自の留学支援制度の構築

## ③外国人留学生の受入れ・定着のための取組

本学学生が4SPUで多文化共修活動に参加する一方、SPUからの留学生も本邦キャンパスで受け入れる。短期サマープログラムを通じて交流を促進し、交換留学受入プログラムであるNUPACEや英語で卒業可能なG30プログラムなどの受入制度を拡充していく。さらに、アジアの人材育成プログラムを統合し、留学生のリクルートを体系的に進めることで、派遣と受入の双方向の留学支援体制を強化する。

## ④国際化のための体制整備・特徴

本学は、SPUへのGMC設置を通じて教育・研究・産学官民連携を強化し、アジアでの人材育成や国際共同研究を推進するために、「GMC推進機構」を令和4年度に設立した。令和7年度には体制を再編し、SPUと密接に国際共修・国際共同研究・国際産学官民連携活動の高度化を図る「戦略的パートナー大学部門」、アジア諸国での大学リソースを有機的に活用し、アジア頭脳循環と地球規模課題解決を担う「アジア共発展部門」、現地展開と各部局の国際化を支える国際活動の基盤「グローバル・エンゲージメントセンター」を設置し、現地展開と連動したグローバルイノベーション人材の育成とアジアの地球規模課題解決を図る。



## ⑤海外拠点の活用について(タイプⅡ:海外展開型のみ)

本学は、4SPUにおいて海外拠点となるGMCに常駐教職員を配置し、各地域の特色を活かした多文化共修プログラムを体系的に展開する。これら拠点に勤務する教職員は、学生の学年や経験に応じた段階的学修(フェーズ1~3)を支援し、現地大学・企業・自治体との連携を通じて、短期研修から研究インターン、起業教育まで多様な学びを提供していく。教職員は、本邦キャンパスと連携しながら現地調整、学生支援、教育プログラムの共同設計・運営を担い、帰国後の学修継続や成果発信にも貢献する。これにより、学生の国際的視野と実践力を段階的に育成する。

## ⑥その他の特徴

4SPUと共同での戦略・計画策定を主軸に、多文化共修国際プログラムを体系的・階層的に整えていくことにより、大学・大学院を通して学生のレベルと需要にあった柔軟で多様な海外での学習・教育機会の提供を目指す。これにより、本学が実現を目指すテラーメイド型留学の確立につなげる。

## 【5.多文化共修科目数・参加学生数の設定目標】

科目数等	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
正課科目数	10903科目	10922科目	10922科目
うち、多文化共修科目数(学士、博士前期、博士後期) ①	15科目	34科目	34科目
【①の内訳】			
・学士課程	9科目	22科目	22科目
・博士前期課程	6科目	12科目	12科目
・博士後期課程	0科目	0科目	0科目

参加学生数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
①の参加学生数(A : B + C)	201人	589人	658人
うち、日本人学生数(B)	126人	344人	402人
うち、外国人学生数(C)	75人	245人	256人
【Aの内訳】			
・学士課程	171人	467人	536人
・博士前期課程	30人	122人	122人
・博士後期課程	0人	0人	0人

学生総数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
学生総数(D : E + F)	16893人	17636人	18217人
日本人学生数(E)	13961人	13961人	13961人
外国人学生数(F)	2932人	3675人	4256人

割合 (多文化共修科目に参加する学生割合)	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
参加学生数(A) / 学生総数(D)	1.2%	3.3%	3.6%
うち、日本人参加学生数(B) / 日本人学生数(E)	0.9%	2.5%	2.9%
うち、外国人参加学生数(C) / 外国人学生数(F)	2.6%	6.7%	6.0%

### ●計画内容(事業期間全体のもの)

多文化共修科目について、令和11年度までに、大学のGMC・海外事務所を活用し、新たに全学教育科目で7科目を実施し、既存の5科目についても多文化共修の内容を盛り込むことで合計12科目で日本人学生250名以上の参加を目指す。専門科目についても、各部局において多文化共修科目の充実を図り22科目で日本人学生150名以上の参加を目指す。これにより、令和11年度には全体で34科目、日本人学生参加者数が400名以上となることを目指す。

# 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業 名古屋大学(タイプII) 取組概要

## 2. 取組内容の進捗状況(令和6(2024)年度)

### 【1.大学の国際化に向けた取組の進捗状況】

本学の国際戦略の中心的構想として、戦略的パートナー大学(SPU)内に構築した本学グローバル・マルチキャンパス(GMC)を活用し、「多文化共修」を実践することを掲げている。その実現に向け、大学内の国際関係組織を一本化し、グローバル・マルチキャンパス推進機構に集約する改組を進め、国際戦略に基づいた活動拡大、即効的・柔軟的対応を可能とした。

SPUとの教育・研究交流活性化のため、本邦キャンパスに各SPU対応部署を設置するとともに、各SPUキャンパスにGMC設置を開始した。令和6年度までにノースカロライナ州立大学に現地キャンパス設置し、シンガポールにもキャンパス展開を担う現地法人を設置してシンガポール国立大学との連携を開始し、フライブルク大学には拠点準備室を設置した。令和8年度にはエディンバラ大学に拠点設置の予定である。その他、学生や教職員の国際交流をより活発化させるため、学事暦変更の検討を開始した。

### 【2.多文化共修に係る取組の進捗状況】

本事業の取組として、学内の国際教育プログラムを多文化共修の概念のもと、3段階のフェーズに分類し、学年および学習難易度別に分けている。フェーズ1では異文化理解を促す交流活動、フェーズ2では価値観の葛藤を通じた応用力の育成、フェーズ3では課題解決型の実践的学びを重視する。これら取組をより活性化させ、学生の国際的視野と実践力を育成し、アカデミック・ソーシャルインパクトを創出する人材を育てていく。また、これらのフェーズを国内と国外プログラム実施に分け、事業を推進する。令和6年度には、SPUでの多文化共修プログラムを体系化し、新たなプログラムを展開・発展させる取組の一つとして、ノースカロライナ州立大学と連携した多文化共修プログラムを特別研修として現地で開催した。今後も多文化共修プログラムを充実させ、海外派遣者数の増加に繋げていく。

### 【3.成果指標】

令和5年度は多文化共修科目は15科目であったが、令和6年度は21科目に増加し、同科目の履修学生も令和5年度201人から令和6年度516人へと増加した。特に、海外連携大学からの外国人学生数の増加が顕著で、参加学生数に対する外国人学生の割合は60%となり、多様な文化背景を持った学生が共に学修する機会を提供することができた。

また、日本人学生の海外留学人数は令和5年度704人から令和6年度815人に着実に増加した。

多文化共修科目(正課科目)	令和6年度
科目数	21科目
参加学生数(A : B + C)	516人
うち、日本人学生数(B)	208人
うち、外国人学生数(C)	308人

### 【4.自由記述欄】

4SPUの中でも、本学の拠点に常駐の教職員がいるノースカロライナ州立大学とシンガポール国立大学とは、先方大学との連携が順調に進んでいることから、派遣プログラム数とその参加人数の実績が着実に上がっている。令和6年度では、日本人派遣学生は、ノースカロライナ州立大学及び周辺大学84人、そしてシンガポール国立大学及び周辺大学115人となり、令和5年度比160%以上となった。今後は、これらに加え、フライブルク大学とエディンバラ大学との教育活動に積極的に取り組んでいく予定である。また、令和7年2月に本事業のキックオフイベントとして、本学においてノースカロライナ州立大学との交流40周年記念式典を開催した。ノースカロライナ州立大学長および各学部長が来学し、今後更に両大学間の絆を深め、本事業等の教育・研究連携を強化することとした。



国際理解科目「短期海外研修A」  
ノースカロライナ州立大学とのRyugaku Academy



「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」  
キックオフイベント

